

9 木造公営住宅等の建設

—地域の住文化の継承・育成をめざして—

1 木造公営住宅等の建設

終戦後から高度経済成長期にかけて、住宅の量的充足を目指し、鉄筋コンクリート造と比較し、簡易に建設できる木造公営住宅がさかんに建設され、昭和40年度までに5,013戸の供給が行われた。

これらの木造公営住宅は、昭和50年代から建替、用途廃止あるいは譲渡処分によってその過半は消失している。

2 HOPE計画

従来の全国画一的な住宅政策から脱却し、地域の自然条件、社会条件、伝統・文化等を踏まえ、地域の特性を活かした住まいづくりを目指す「HOPE計画」(HOPE=HOusing with Proper Enviroment)が昭和58年度から策定された。ハード的なもの(住宅建築の工法、建築様式など)だけでなく、ソフト的なもの(生活様式や地域コミュニティのあり方など)についても強く意識す

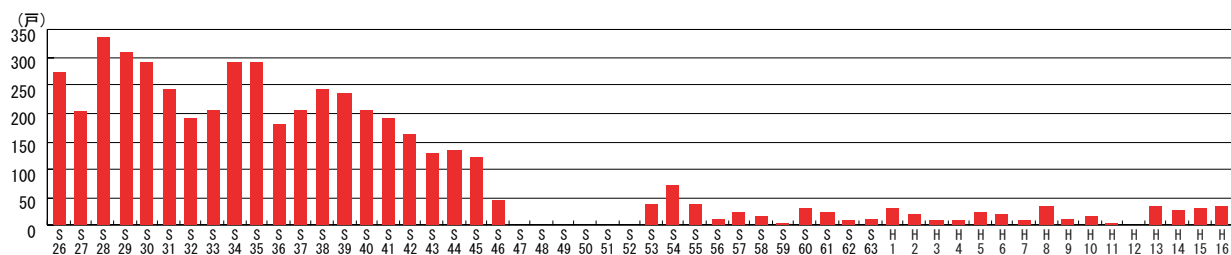
ることが重要とされた。

石川県においてはこれまでに、5つの計画が策定されている。HOPE計画に基づいて、旧柳田村や旧中島町等において、良質な木造住宅が建設された。

3 今後について

依然として昭和30、40年代に建設された木造公営住宅が579戸存在しているが、これらの住宅は居住水準が低いものが多く、老朽化していることから建替を進めることが重要である。

また、平成4年の建築基準法改正により、木造3階建の共同住宅が建設可能となったこと、在来木造工法以外にも2×4工法や大断面集成材の採用など、様々な工法が発展してきていることから、新たな木造公営賃貸住宅の供給手法についても検討課題であるといえる。



木造公営住宅の年度別建設戸数

石川県内のHOPE計画概要

策定年度	策定主体	テーマ	概要
S58	寺井町	九谷のまちらしさと豊かな住環境を目指して	・九谷焼の陶板、地杉など、地域の素材の活用 ・三世代住宅、作業場付住宅など、地域に見合った住まいづくり ・庭と道が一体となった伝統的コモンスペース
H2	白山連邦合衆国 (1町5村)	白き神々の里づくり	・雪に強い住環境・住まいづくり ・高齢者に対応した住まいづくり ・「絵」になるまちなみ・むらなみづくり
H3	柳田村	柳田の里ふれあいの住まいづくり・むらづくり	・山なみ・水辺・星空の保全 ・柳田の風土に根ざした伝統的な住まいの空間構成の維持 ・若者が住みたくなる住まい
H4	中島町	自然と歴史に包まれた能登半島クロスロード	・中島町を人々が交流するクロスロードととらえたまちなみづくり ・地域商業振興の舞台づくり ・「あづまだち」「ひらやだち」を活かした住まいづくり
H5	美川町	川と海の出逢い町・文化が息づくまちづくりをめざして	・ウォーターフロントにふさわしい景観づくり ・伝統を尊重しつつ現代の生活構造に適合したまちづくり ・まちなみ・いえなみを守り創るシステムづくり

4 事例

木滑住宅団地（白山市・旧吉野谷村）

建設年度 H2-3、木造 2F

公営 12 戸

【新設】

過疎化・高齢化が進む地域において、人口増加を目指し若年層定着型を主眼にしている。住戸は瓦葺切妻屋根 2 戸 1 棟形式のメゾネットタイプである。石川県内屈指の豪雪地帯であるため、高床構造や歩行空間の雁木設置、2m の積雪まで雪下ろし不要な載雪型屋根など、雪と共存できる工夫が各所になされている。



木滑団地 雁木と外観

宮ノ森団地（白山市・旧鳥越村）

建設年度 S57、木造平屋

公営 10 戸

【新設】

豪雪地帯であることを考慮し、住戸は高床式とし、床下は除雪器具やスノータイヤ等の収納庫となっている。道路に面しない棟には雁木を設置し、雨や豪雪時のアプローチが確保されている。

曲線道路の整備や既存集落に多い柿の木を植え



宮ノ森団地

るなど、周辺との関係性、連続性を重視した計画となっている。



宮ノ森団地 配置図

さくら住宅団地（能登町・旧柳田村）

建設年度 H5-6、木造 2F

特公賃 18 戸

【新設】

HOPE 計画の基本方針のひとつである「次代につなげる村づくり」の実現のため、モデル住宅として建設された、石川県内初の特定公共賃貸住宅。

軒の出の深い切妻大屋根を持つ 2 戸 1 棟住宅で、九六間といわれる大規模な民家のスケール感を再現している。外観は、黒の地場釉薬瓦、下見板の外壁、漆喰壁風仕上げなど、周囲の景観になじんでいる。住戸内には掘り炬燵、外部には「ニワ」空間を設けるなど、地域生活様式を活かし、住民が愛着を持てるよう工夫がされている。



さくら住宅団地